

算数科 2年B組	かけ算	糸我 直人
-------------	-----	-------

1. 単元について

子どもたちは第1学年において、具体物を2ずつ、5ずつ、10ずつなど、いくつかずつにまとめて数えることを経験し、かけ算の素地となる学習を行ってきた。かけ算(1)では、かけ算の意味を理解し、5、2、3、4の段のかけ算を構成し、九九を唱えたり、それを適用したりできるようにする。かけ算(2)では、アレイ図等を使って、6、7、8、9、1の段のかけ算を構成し、九九を唱えたり、それを適用したりできるようにする。かけ算のよさは、全体の個数を一つ一つ数えずに、同じ数のまとまりを見つけたら、そのいくつかを数えるだけで個数もとめられることである。生活においてもかけ算が用いられる場面はたくさんあり、算数で学んだことが、生活に生きることが実感できる。また、かけ算の成り立つ性質を利用して九九を構成することを学習することで、論理的思考力を身につけることができる。

2. 単元設定の理由

(1) 本実践の主張点

かけ算の意味理解を大切に、子どもたち自ら九九をつくる活動をすることで、多様な見方、考え方ができ、かけ算の概念を理解できるであろう。

かけ算というと九九を覚えることだけに偏ってしまいがちである。そのため、2つのことに気を付けて本単元に取り組みたい。

1つ目は、しっかりとかけ算の意味を理解させることである。ブロック操作やアレイ図を使いながら「同じ大きさの集まり」に着目させたり、それが「いくつ分」あるのかをはっきりと意識づけさせたりしていきたい。

2つ目は、子どもたち自らの力で九九を作り出すということを大切に学習過程を組むようにしたい。かけ算(1)では、5、2、3、4の段の九九の意味や、どのようにつくっていくかをしっかり考えられるようにする。そして、かけ算(2)の6、7、8、9、1の段では、子どもたちに任せて自分たちでつくっていけるようにしていく。そのために、かけ算(2)の学習では、九九を同数累加や、交換法則、分配法則など多様な見方で、活用して九九を作れるようにしていく。

このようにして、子どもたちが数学的な見方・考え方を働かせ、そのような過程を通して数学的に考える資質・能力の育成を図りたい。

(2) 教科提案との関わり

今年度の算数科提案は、「子どもがつなぐ算数授業～解釈と共有を軸にして～」である。自分なりの考えをもつことができても、互いの考えを交流し合う場面において、考えを十分に解釈できないと、学びを深めることができない。子どもの言葉を丁寧に解釈し、共有していく過程が必要である。本単元においても、子どものつぶやきや思いを大切に、子どものつながりを大切にしながら、友達の考えをみんなで考える時間をとり、共有することで九九の構成の意味理解を深めていきたい。また、習っていない九九の答えを求めるのに、多様な見方を子どもたち同士で解釈し、本年度、重点的に取り組んでいる類推的な見方・考え方を育みたい。

(3) 「問い続け、学び続ける子どもたち」をめざすために

算数科では、「問い続け、学び続ける子どもたち」を自ら問いをもち絶えず思考すると共に、仲間の表現に対しても絶えず思考する姿と定義している。本単元においても、九九づくりにおいて、子どもたちが「どのようにしたら九九がつくれるかな」と問いをもつことが、思考する姿につながると考える。そして、自分の考えと仲間の表現を比べて考え、交流することで絶えず思考し続ける姿に迫っていけないのではないかと考えている。

3. 単元目標

アレイ図等を使って、6, 7, 8, 9, 1の段のかけ算を構成し、九九を唱えたり、それを適用したりできる。

【関心・意欲・態度】・アレイ図の便利さに気づき、進んで九九を構成しようとする。また、九九のようすがわかり、進んで用いようとする。

【数学的な考え方】 アレイ図や、かける数が1ふえると積はかけられる数だけふえることを使って九九を構成することができる。

【技能】 九九を唱えたり、それを適用して問題を解いたりすることができる。

【知識・理解】 アレイ図を使った九九の構成の仕方がわかる。また、かけ算が用いられている場面がわかる。

4. 単元計画（全31時間）（本時18／31）

第1次 かけ算（1）17時間

- ・かけ算の意味 . . . 4時間
- ・「倍」の意味と見方 . . . 1時間
- ・5の段（構成、唱え） . . . 3時間
- ・2の段（構成、唱え） . . . 2時間
- ・3の段（構成、唱え） . . . 2時間
- ・4の段（構成、唱え） . . . 2時間
- ・習熟・既習事項を使った発展問題 . . . 3時間

第2次 かけ算（2）15時間

- ・6の段（構成、唱え） . . . 2時間（本時1/2）
- ・7の段（構成、唱え） . . . 2時間
- ・8の段（構成、唱え） . . . 2時間
- ・9の段（構成、唱え） . . . 2時間
- ・1の段（構成、唱え） . . . 2時間
- ・習熟、発展問題 . . . 5時間

5. 本時について

本時では、5, 2, 3, 4の段の九九づくりで学んだことを生かしながら、「どうすれば習っていない段の九九の答えをだせるのだろう。」という問いをもち、問題解決に向かう主体的な学びを目指したい。

同数累加や交換法則、分配法則など多様な見方をもとに子どもたちが互いの考えたことを分かちやすく伝え、共有することで、「自分でも九九づくりができる。」と実感していく過程が、本時の学びの深まりと考える。